

グローバルCOEプログラム「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」
金曜セミナー（2007年11月9日）

グローバル化とアジアの価値変動



アジア太平洋研究科・教授
園田 茂人

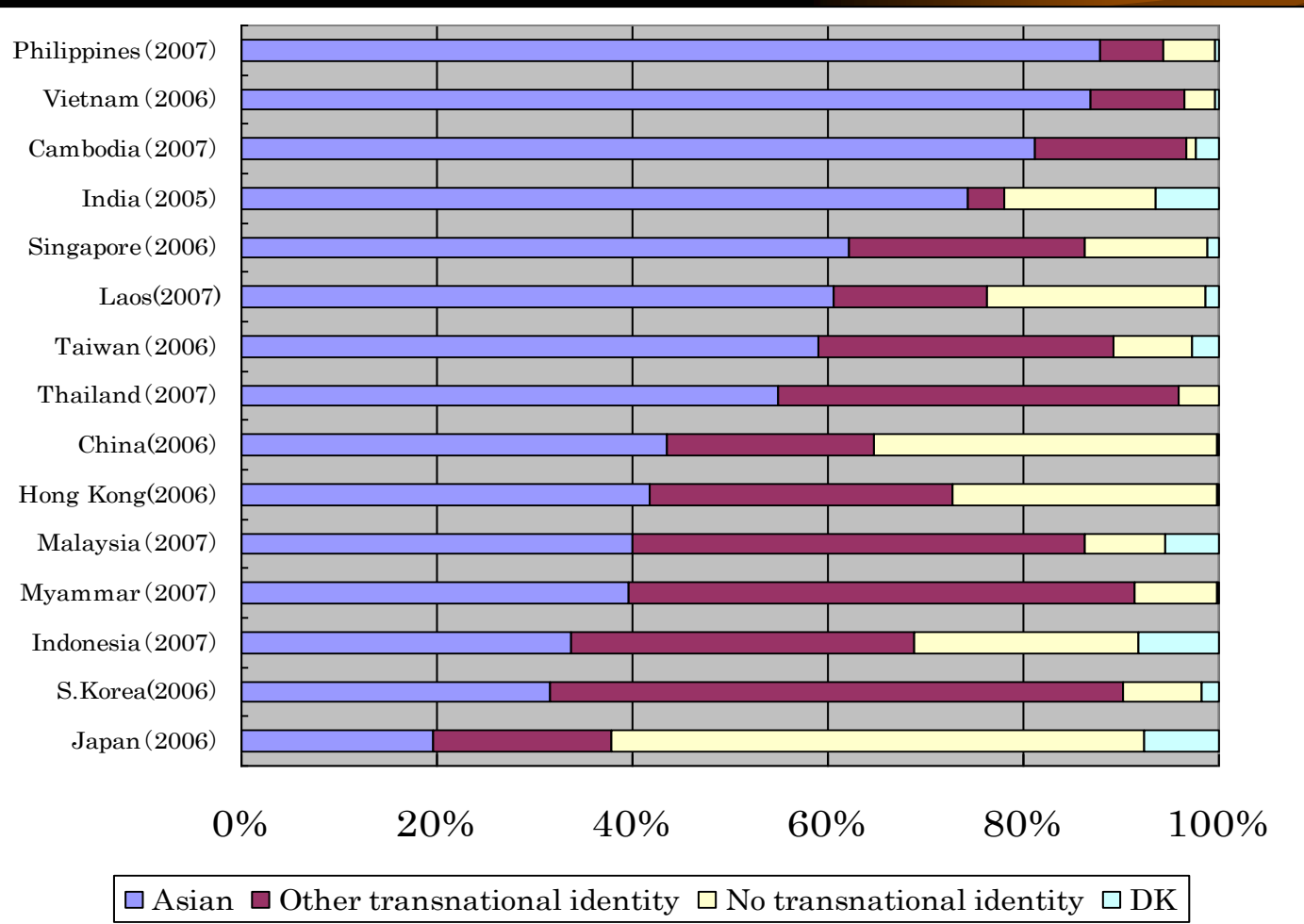
アジア統合論と社会学の接点

- * 「アジア統合 (Asian Integration)」をめぐる言説と社会学者の不参加：なぜ？
- * 社会統合：社会システムを構成する諸要素の間の矛盾・対立・葛藤を極小化して両立できるように調整し、全体としてのまとまりと独自性を維持する過程（『社会学小辞典』289ページ）
- * どの要素に注目するか・・・価値 (value) による「潜在的パターン維持」 (T. Parsons) 機能の重要性

アジアにおける価値をめぐる議論

- ・ 「この地域における共通のアイデンティティが欠如しているため、北東アジアの共同体構築は非常に遅れている。解決すべき多くの問題があるが、北東アジア共同体の構築は喫緊である。共通のアイデンティティと共同体意識こそが、やがて来る北東アジア共同体の基礎となる。しかし、このアイデンティティの形成は、社会的活動の促進と交流の長期的活動となる」
- ・ （張小明，2006，「北東アジア共同体の構築に関する一考察」滝田賢治編『東アジア共同体への道』中央大学出版部、271ページ）

図1 まだら模様のアジア人意識



アジアの価値変動をめぐる3つの立場

- ・ 伝統論的アプローチ (Traditionalist Approach) : アジアの個々の社会がもつ価値の相対的自律性を強調する立場
- ・ グローバリストアプローチ (Globalist Approach) : アジア各地の価値の収斂=グローバル化を強調する立場
- ・ 文化混交論的アプローチ (Cultural-Hybridity Approach) : アジアの中で非アジアと異なる価値の生成/共有を強調する立場

伝統論的アプローチに適合な事例

- 相対的に安定している日本の「アジア人意識」：日本におけるアジアへの位置づけ動機の歴史的欠如？（図2，3）
- アジアの社会階層で見られる「宗教意識」と「民族意識」：階層構造の変化は価値観の国境を変えない？（図4）

図2 日本におけるアジア人意識の変化

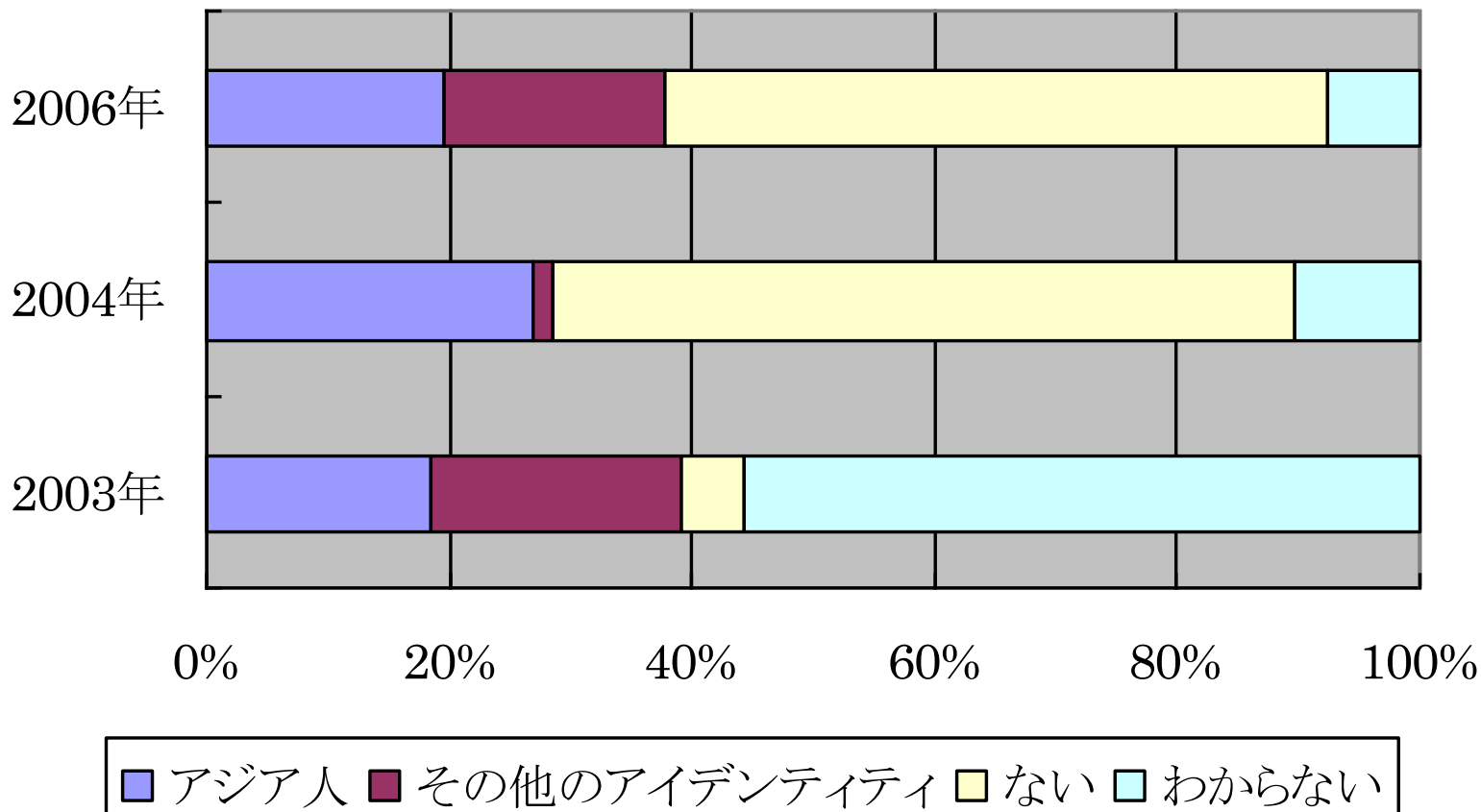
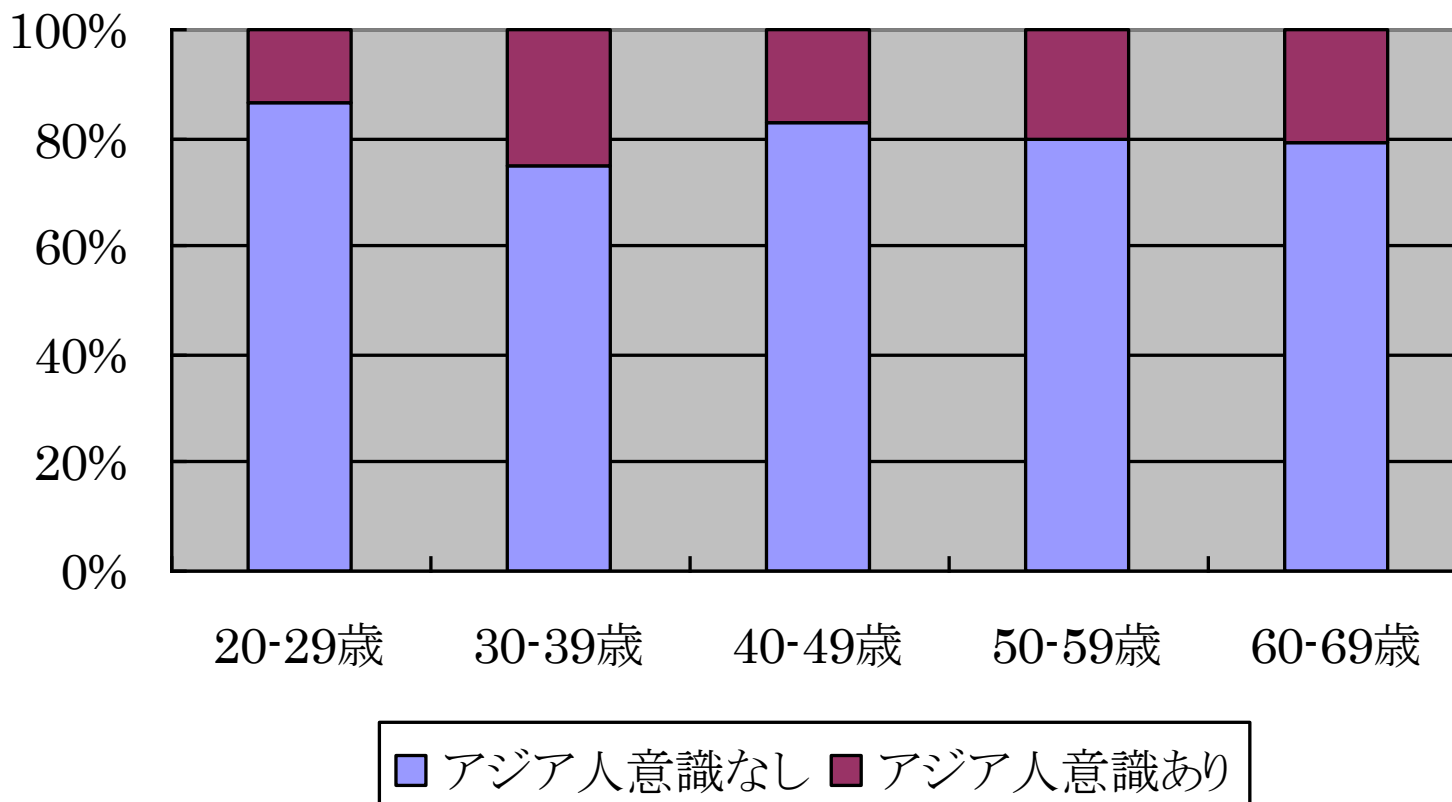
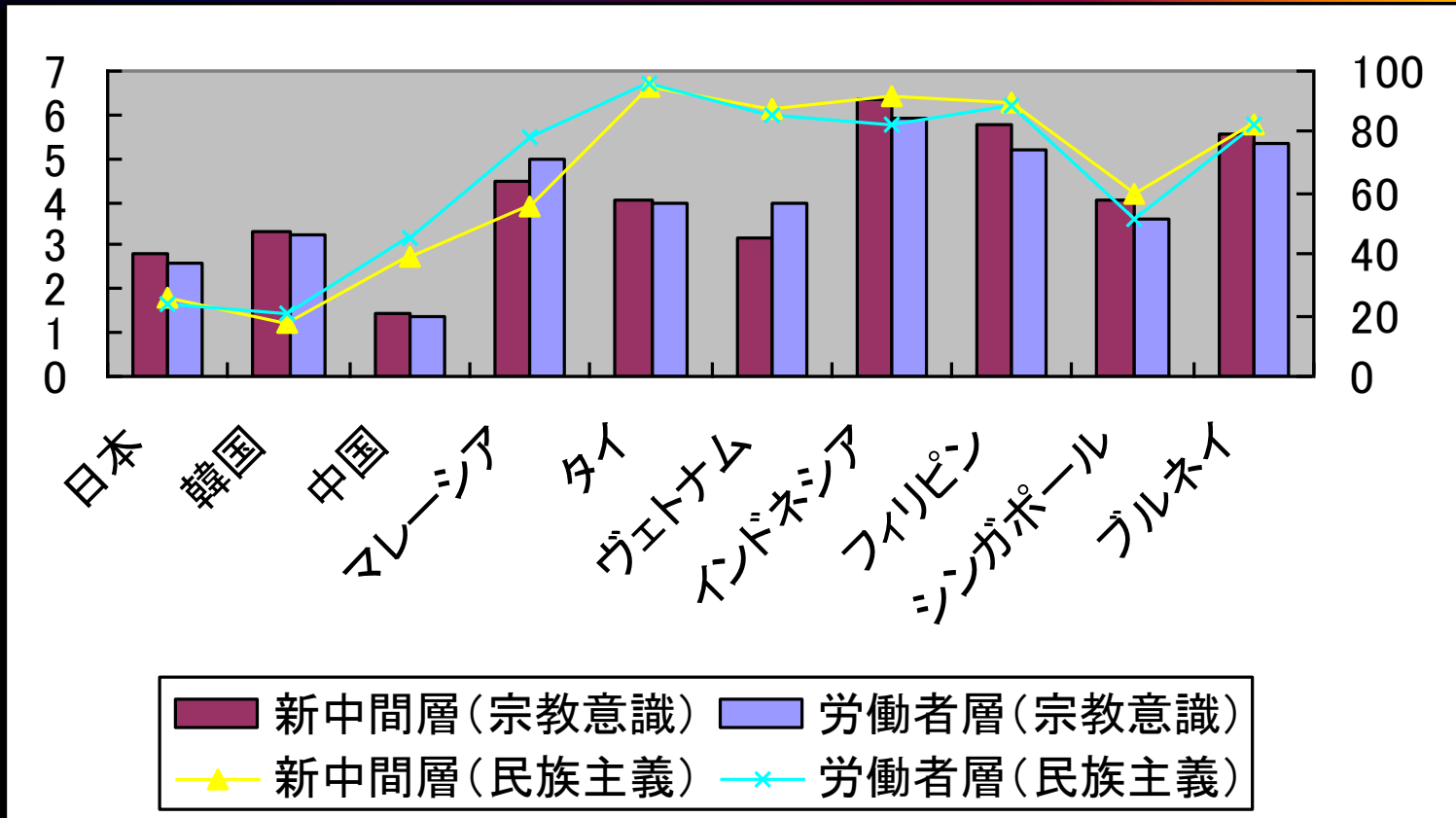


図3 世代別にみた日本人のアジア人意識



注)2003年のデータで「わからない」という回答が全体の半数以上に達しているのは、調査時点で回答に迷った場合に、「国際的アイデンティティの有無」をきかずに「わからない」と判断したからだとと思われる。

図4 階層別に見た民族意識と宗教意識 (単位：ポイント、%)

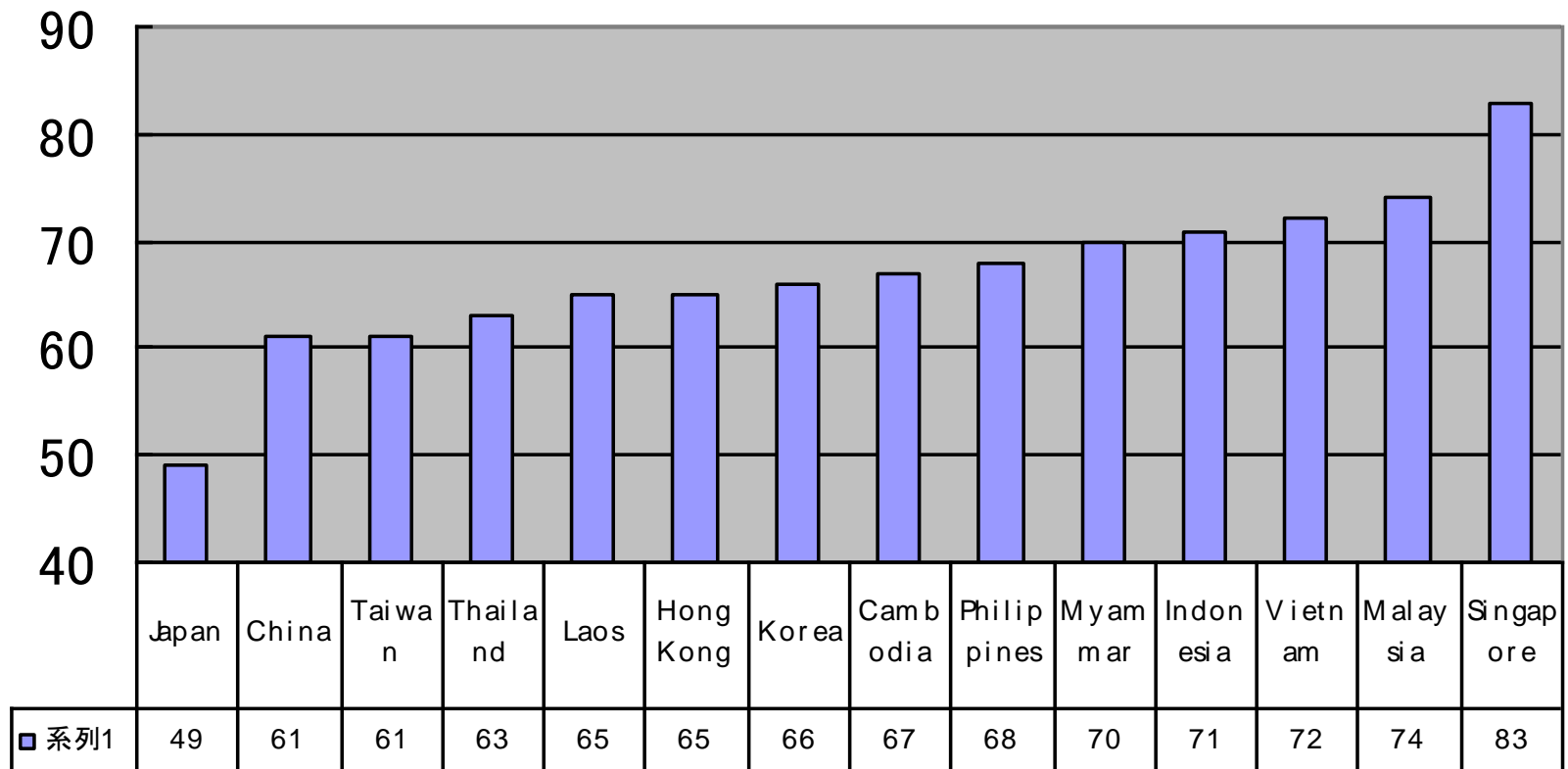


注)「民族主義」については、問16「あなたは**人としての誇りをどの程度感じますか」との問いに対して「1. 強く感じる」と回答した者の割合を、「宗教意識」については、F10「結婚や葬式などを除き、あなたは最近、どの程度宗教的な儀式や礼拝の場所に行っていますか」で「1. まったくない」から「7. 少なくとも週に2度」の7点スコアの平均値をそれぞれ示す。そのため、両方とも数値が高ければ「偏狭性」が強いことを意味している。なお、中国とヴェトナムでは、宗教意識に関する質問は質問内容からはずされているため、データが欠落している。

グローバルストアプローチに適合的な事例

- 英語化の進展と拡がる「能力主義的価値観」：属性原理から業績原理への全面的移行？（図5，6）
- 功利主義的教育観の広がり と教育達成への動機づけの発生：学歴病（diploma disease）の世界的拡がり？（図7）

図5 反身びいき主義的態度にみるアジア (単位：%)



注) Suppose that you are the president of a company. In the company's employment examination, a relative of yours got the second highest grade, scoring only marginally less than the candidate with the highest grade. In such a case, which person would you employ? という問いに (1) The person with the highest grade と回答した割合を示す

図6 英語能力別にみた反身びいき主義的態度 (単位：%)

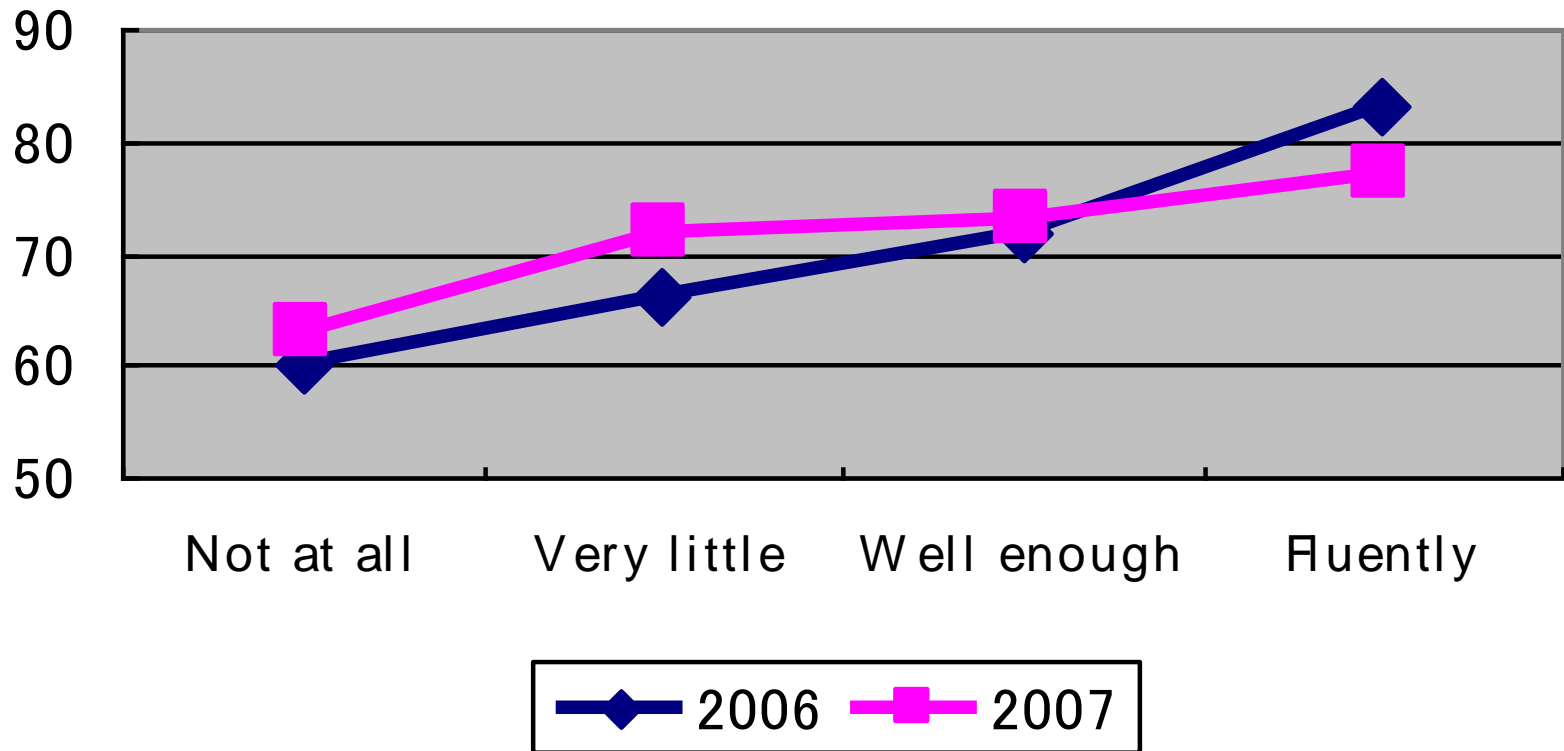
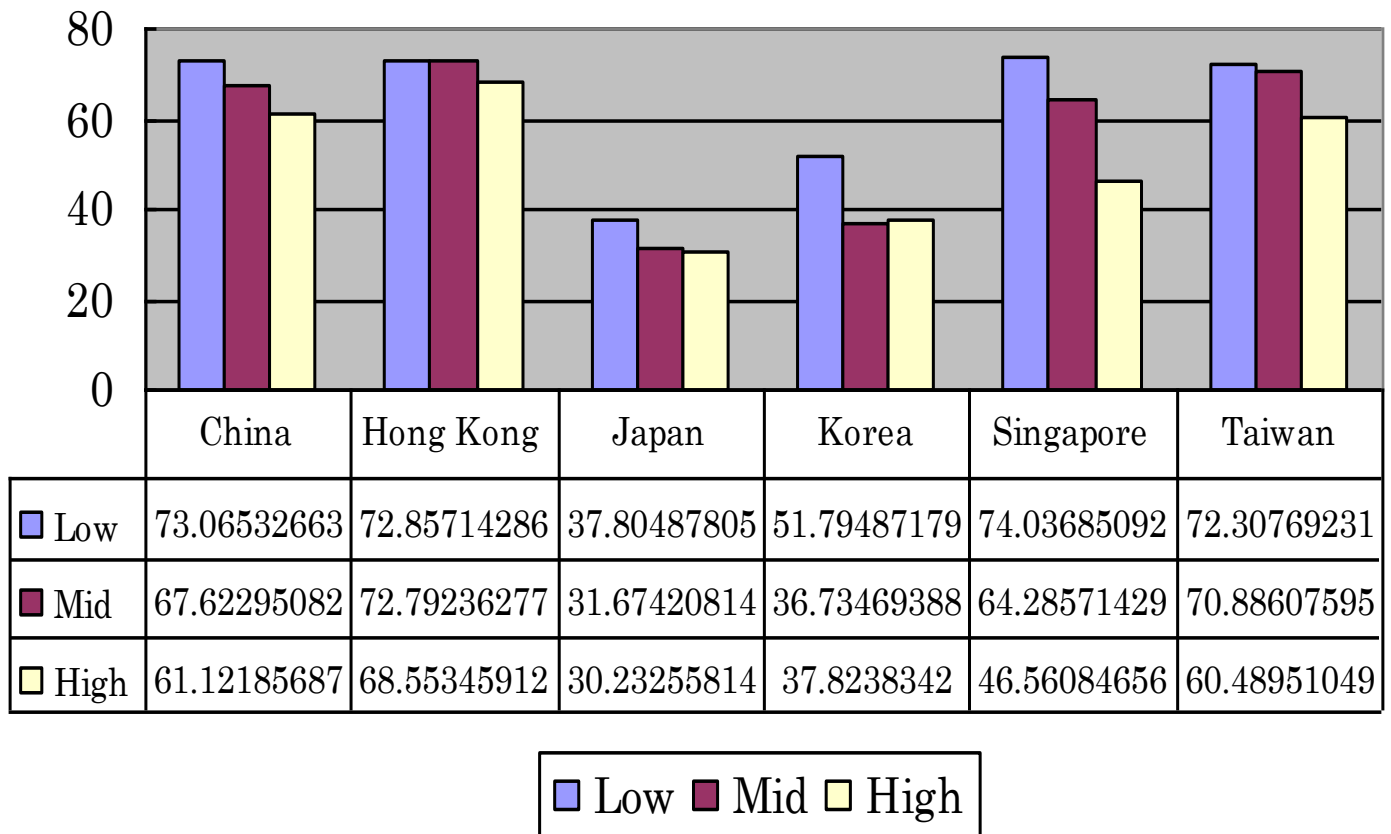


図7 教育達成によって多くのお金を得ることができる (単位：%)



文化混交的アプローチに適合的な事例

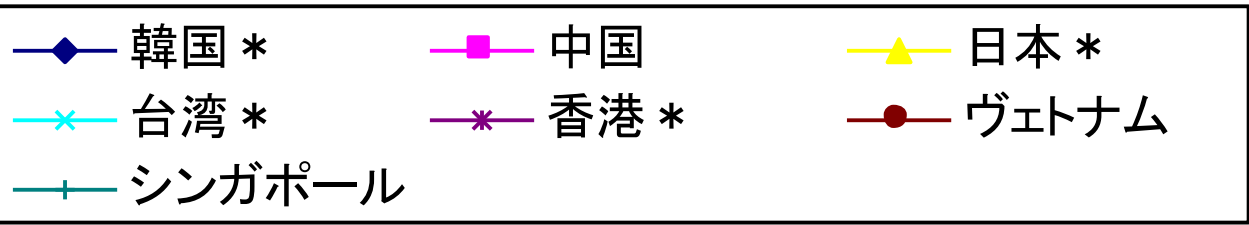
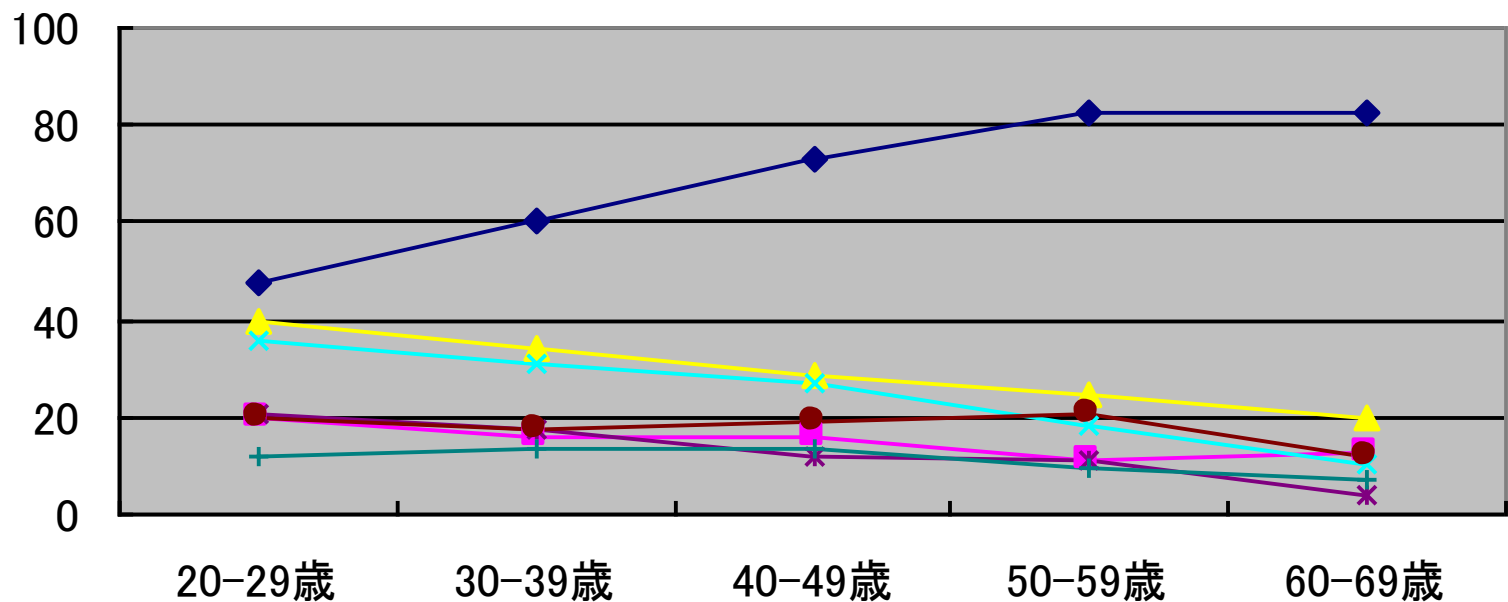
- アジア意識を形成する要因としての英語能力とグローバル化への接触度：（非）アジアとの接触がアジア人意識の生成を促す？（表）
- （一部）アジアに広がるローカル食の広がり：台頭するキムチ共同体？（図8）

表 アジア人意識の有無を決定する要因： 二項ロジスティック回帰分析の結果

	非標準化係数	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp (B)
グローバル化への接触度	.100	.017	35.163	1	.000	1.105
自国民としての誇り	.782	.026	904.914	1	.000	.457
英語能力	.091	.023	15.231	1	.000	1.095
定数	1.381	.056	607.283	1	.000	3.977

注) 被説明変数はアジア人意識の有無を示すダミー変数。グローバル化への接触度は6ポイントスコア、自国民としての誇りは4ポイントスコア、英語能力は4ポイントスコアとなっている。

図8 キムチを好んで食べる者の割合 (%)



要約と討論

- グローバル化とアジアの価値変動をどのように理解するか？：重要となる視点と現象
- 文化混交論的アプローチの射程：価値観における「アジアのアジア化」とは何か？
- イデオロギーでなく経験的根拠を：アジアバロメーターの社会的インパクト